

# 私立大学研究ブランディング事業 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	131022	学校法人名	慈恵大学		
大学名	東京慈恵会医科大学				
事業名	働く人の疲労とストレスに対するレジリエンスを強化するEvidence-based Methodsの開発				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	900人
参画組織	精神医学講座 リハビリテーション医学講座 ウイルス学講座 臨床検査医学講座 環境保健医学講座 疲労医学研究センター 安定同位体医学応用研究センター 経営企画部 広報課 研究支援課				
事業概要	<p>本学が注力して来た体力医学や産業医学における実績に加え、私立大学戦略的研究基盤形成事業で独自に得た疲労の分子機構や客観的測定法などの知見を利用し、働く人のメンタルヘルスを科学的に行う方法を開発し実用化する事業である。これにより、疲労およびストレスに起因する、うつ病などの疾患に対する予防法を確立し、患者の心の痛みを理解し患者の側に立つ全人的で高度な医療を提供するという建学の精神をブランド化する。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神を象徴的に示すことで、本学の最大の長所である“患者の気持ちをくみ取り行動する”という精神を、内部ステイクホルダのみならず、広く外部への浸透を図り、大学ブランド力の向上に繋げる。</p> <p>本学は、伝統的に産業医を多く輩出し地域の産業医とは密接な関係にある。東京都港区に位置する附属病院本院では、近隣の開業医と近隣企業の産業医との連携を強化し「都市型地域医療連携」の在り方をこれまで模索してきた。</p> <p>また、本学の歴史を振り返ると、学祖である高木兼寛が食事療法で脚気を予防したこと、食事・健康・住居・衣服・衛生などの観点から健康増進にアプローチを試みるなど今日の予防・未病領域の取り組みを先取りしていたこと、さらには疲労研究の重要性を強く認識していたことから、本学は歴史的に疲労や栄養に関して強い関心を持ち続けてきた。</p> <p>更に、最近、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の成果として、疲労やストレスレジリエンス低下の客観的測定を可能とした。</p> <p>本事業では、肉体的、精神的な数多くのストレスや疲労にさらされている働く人のメンタルヘルスの問題に対し、疲労やストレスレジリエンスに関する客観的測定や、疲労やストレスの解消の為に運動療法や栄養療法などを中心とした予防法や健康増進法を提供するといった、総合的なヘルスケアシステムの構築を目指す。これにより、本学の建学の精神が医療の今日の課題にまさに応えるものであることを象徴的に示すとともに、本学の考える全人的・総合的な医療とは、病気が否かにかかわらずもって日常的な生活の中にある身近なものであり、人々の幸福に貢献する医療なのだ、という理解を促す。</p> <p>また、その理念を実現する基盤として、産業医や企業内診療所等との密な連携を明示的に示し、本学の考える「都市型地域医療連携」の具体像を社会に広く伝えたい。</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<p>(1)実施目標</p> <p>【研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>系統的なレジリエンス評価システムと評価に基づいた強化プランの立案と、診療体制の整備。</li> <li>動物実験モデルにおける抗疲労成分の同定。</li> </ul> <p>【ブランディング戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブランディング戦略の効果評価のためのベンチマーク・スタディ。</li> <li>ブランディング視点での事業計画と戦略的広報活動の確認・修正。</li> </ul> <p>(2)実施計画</p> <p>【研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価項目の選択、評価シートの作成、評価基準の設定、診療・検査システムの構築、倫理委員会申請を行う。</li> <li>身体疲労モデルマウスと疲労バイオマーカーを用いて、既存の抗疲労成分やこれまでに疲労との関係が知られていない食品成分の抗疲労効果を評価する。この研究は次年度も継続して行う。</li> </ul> <p>【ブランディング戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブランディング戦略の効果評価のためのベンチマーク・スタディ：一般生活者調査(ウェブ調査。対象者は企業勤務の20-60代男女)を通じたベンチマーク設定。</li> <li>ブランディング視点での事業計画と戦略的広報活動の確認・修正：             <ul style="list-style-type: none"> <li>①上記の一般生活者調査の中で「疲労とストレスについてどのくらい知っているか(例：疲労とストレスの違いに対する理解度)」「対象者は自身の疲労/ストレスの状態をどう把握・評価しているか」「疲労/ストレスにどう対処しているか」等々を聞き、現状を把握する。</li> <li>②産業医、企業社員へのヒアリングを実施し、「本事業への共感形成」と同時に、本事業を通して「浸透させたい慈恵医大のイメージ」を効果的に伝えるためのヒントを探り、ブランディング視点から本事業の進め方やあり方を適宜軌道修正する。</li> </ul> </li> </ul>				
③平成29年度の事業成果	<p>【研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メンタルヘルスに問題のある対象者に対して、精神的診断に加えて、疲労及びストレス状態を客観的に評価するための検査項目を選択するとともに、メンタルヘルスの状態を判定するための質問票(評価シート)を作成した。チェック項目をスコア化し、スコアに基づく疲労度、ストレス状態の評価基準を設定した。産業医との連携により、メンタルの不調を訴える対象者にレジリエンス強化外来を受診して頂くフローを検討した。</li> <li>本事業における臨床研究計画書を作成し、倫理委員会への申請を行った。</li> <li>疲労因子、疲労回復因子に加え疲労の検知機構を同定し、抗疲労効果の客観的測定の精度を向上させた。</li> <li>動物モデルのうつ症状の客観的評価法を確立し、食品などの成分のうつ病予防効果の判定を可能とした。</li> <li>キックオフシンポジウムを開催し、H29年度の研究成果を中心に、疲労・ストレス研究の最先端の研究動向について、情報発信を行った(3/27)。</li> <li>慈恵医大第三病院との共催により、市民公開講座「心の健康セミナー」を開催した(3/10)。</li> </ul> <p>【ブランディング戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①慈恵大学の認知度の向上を図る目的、及び②疲労/ストレスに関する現状を把握する目的で、一般生活者を対象とするアンケート調査について、企画・立案した。</li> <li>産業医とのネットワークを活用して、産業医や企業社員へのヒアリングを実施した。ヒアリングを通して、本事業の取り組みを紹介し、共感を促すとともに、「浸透させたい慈恵医大のイメージ」の効果的普及のためのヒントの収集した。</li> <li>事業の推進状況を随時把握し、学長を中心に、事業内容の見直しなどを適宜行った。</li> </ul>				
④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動は、キックオフシンポジウムを開催する等、計画通り進められた。</li> <li>ブランディング戦略については、本学の認知度及び疲労・ストレスに関する現状把握を目的としたアンケート調査の企画立案がされた。</li> </ul> <p>(外部評価)</p> <p>○<b>研究評価委員による評価コメント</b></p> <p>私立大学戦略的研究基盤形成事業で得られた研究成果を基盤技術として、疲労のメカニズムの解明やストレス状態を客観的に評価するための新たな指標の探索研究が進展した。また、研究実施計画に基づき、倫理委員会への申請がなされ、疲労・ストレス外来の開設に向けた準備が進められている。</p> <p>○<b>研究ブランディング評価委員による評価コメント</b></p> <p>本事業終了後を見据えたベンチマークに有用なアンケート調査の実施にあたり、事前に行った慈恵大学のブランディングのための欄外調査の結果を踏まえた企画・立案を行ったが、実際のアンケート調査は平成30年度に持ち越された。</p> <p>○<b>事業評価委員による評価</b></p> <p>初年度の事業は、概ね計画通り進行している。</p> <p>アンケート調査は回収などに不安定な要因があるため、結論を急ぐあまり拙速な対応にならないよう望む。</p> <p>本事業の専任URAの採用により、質を高めた上で、更に円滑な事業の推進が期待される。</p>				
⑤平成29年度の補助金の使用状況	<p>監査法人による定期的な検査を受け、適切に管理している。</p>				